

2019年度泉杯新人大会でのルール変更

南予ミニバスケットボール連盟

<29-1 ルール>

29-1-1 以下の状況において：

- コート上でプレーヤーがライブのボールをコントロールするとき
- スローインのときは、コート上のプレーヤーがスローインされたボールに正当に触れ、スローインしたチームのプレーヤーがそのボールをコントロールしたときそのチームは24秒以内にショットをしなくてはならない。

24秒以内にショットをしたとみなされるためには、以下の2つのことが満たされなければならない：

- ① ショットクロックのブザーが鳴る前に、ボールがプレーヤーの手から離れていること
- ② ボールがそのプレーヤーの手から離れたあと、リングに触れるかバスケットに入ること

29-1-2 24秒の制限の終了間際にショットがなされ、そのボールが空中にある間にショットクロックのブザーが鳴った場合：

- ボールがバスケットに入った場合、バイオレーションにはならない。ブザーは無視され得点は認められる
- ボールがリングに触れるがバスケットに入らなかった場合、バイオレーションにはならない。ブザーは無視されゲームは続行される
- ボールがリングに当たらなかった場合、バイオレーションとなる。しかし相手チームが速やかかつ明らかにボールをコントロールした場合、ブザーは無視されゲームは続行される

ゴールテンディングとインタフェアレンスに関する規定は全て適用される。

【補足】ショットクロックのブザーが鳴った後でも全て適用される。

<29-2 手順>

29-2-1 審判が次の理由でゲームを止めたときは、ショットクロックをリセットする

- ボールをコントロールしていないチームのファウルあるいはバイオレーションの場合（ボールがアウトオブバウンズになる場合は除く）
- ボールをコントロールしていないチームに原因がありゲームを止めた場合
- どちらのチームにも関係のない理由でゲームを止めた場合

これらの場合、ボールのポゼッションはボールをその前にコントロールしていたチームに与えられる。その後、

- スローインがバックコートで行われる場合は、ショットクロックは 24 秒にリセットされる
- スローインがフロントコートで行われる場合は、ショットクロックは以下のとおりリセットされる：
 - ① ゲームが止められたときにショットクロックが 14 秒以上であった場合、ショットクロックはリセットされず、止められたときに残っていた秒数から継続される
 - ② ゲームが止められたときにショットクロックが 13 秒以下であった場合、ショットクロックは 14 秒にリセットされるただし、ゲームがどちらのチームにも関係のない理由で審判によって止められたとき、ショットクロックをリセットすることが相手チームに不利な状況をつくってしまうと審判が判断した場合は、ショットクロックは止められた時点の秒数から継続される。

※ ミニには、バックコートの定義がないため適用しない。

29-2-2 審判が、ボールをコントロールしているチームのファウルやバイオレーションでゲームを止め、スローインが相手チームに与えられる場合は、いかなるときでもショットクロックは 24 秒にリセットされる。

29-2-3 ボールが相手チームのバスケットのリングに触れたとき、ショットクロックは以下のとおりにリセットされる：

- ① 相手チームがボールをコントロールした場合は、24 秒
- ② ボールがリングに触れる前にボールをコントロールしていたチームと同じチームがボールをコントロールした場合は、14 秒

29-2-4 一方のチームがボールをコントロールしているとき、あるいはどちらのチームもボールのコントロールを得ていないときに、ショットクロックのブザーが誤って鳴った場合、ブザーは無視されゲームは続行される。

ただし、ボールをコントロールしていたチームが不利な状況になると審判が判断した場合、ゲームを止め、ショットクロックを訂正し、ボールのポゼッションはそのチームに与えられる。